

〈1〉 青年期の意味

超重点

1 青年期

(1) 青年期は思春期ともいう

- ①青年期 (adolescence) 「成長・発育する (ラテン語)」が語源
- ②思春期 (puberty) 「生殖能力が成熟する (ラテン語)」が語源
- ③[第2次性徴] 生理的・身体的な変化と、それに伴う精神的な変化

(2) 青年期は近代の産物

- ★①青年期の登場 近代産業社会の発展⇒20世紀に青年期が一般化
- ★②青年期の延長 青年の長期化⇒20世紀後半に青年[後期]が一般化
- ③延長の主要因 高度産業社会における技術・知識の[修業期間]の長期化

2 青年期の特徴

(1) 自我の発見 他者と自己を区別する自覚的個人の意識[自己意識]の発見

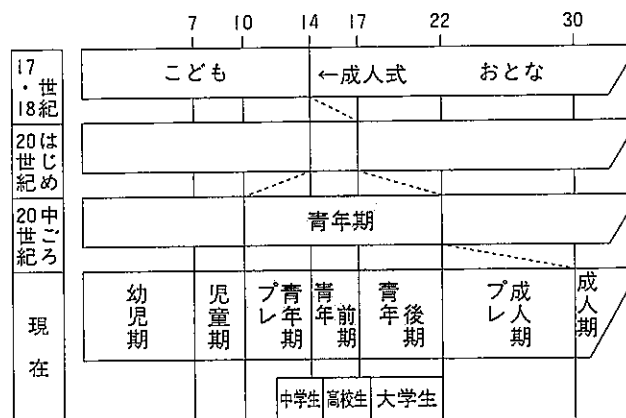
- ★①[第二の誕生] (ルソー『エミール』)
 - ②第二反抗期 理想と現実のギャップによるイラツキ, 理由なき反抗
 - ★③[境界人] こどもでもおとなでもない不安定な存在としての自覚
- (2) 疾風怒濤 (シュトルム・ウント・ドランク Sturm und Drang) の時代
- ①[心理]的離乳 親からの自立, 自己の価値観の確立
 - ②内面への旅 自己と自我への分裂⇒自分への問いかけ ([内省]的生活)
 - ③孤独と友情 分離一個体化の過程, 心の友(全人格的なつながり—尊敬と共感)
- (3) コンプレックス ([劣等]感): 自己成長の原動力

3 青年期の課題

(1) 青年期の発達課題

- ①[ハヴィ・ガースト]の発達課題: 人間の発達段階に応じた課題を提示
 - ②課題 親からの精神的独立・自我同一性の確立・異性と適応・倫理観の確立
- (2) [アイデンティティ] (identity[自我同一性]) の確立
- ①「自分が自分として生きている」という実存的な側面 (個性化)
 - ②「社会の何かと絆を保っている」という社会的な側面 (社会化) } 調和
- (3) 青年期 — モラトリアムの時代
- ★①モラトリアム ([猶予期間]): 経済的・社会的責任や義務の[免除]期間
 - ②社会的遊戯の時代 試行錯誤 (trial and error) による自己形成の期間
- (4) 現代の青年の問題
- ①おとなになれない青年⇒『[ピーターパン]症候群』、『青い鳥症候群』
 - ②価値の多様化と複雑な社会⇒自我同一性の[拡散]と自我同一性の[危機]

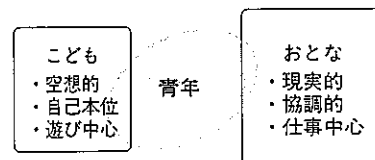
A 青年期の区分



(西平直喜編「揺れる青春」による)

B 境界人, 周辺人 marginalman

レヴィン(Lewin 1890~1947)



▶対立する集団に同時に属しているために行動様式が不安定な状態にあるひと。児童期からおとなへの移行期にあって、こどもでもおとなでもない青年をいう

資料 第二の誕生

(ルソー『エミール』)

われわれは、いわば、この世に二度生まれる。一度目は存在するために。二度目は生きるために。一度は、人類の一員として、二度目は性をもった人間として。

重要用語のチェック

通過儀礼 近代以前の社会には青年は存在しない。こどもが適齢期になると、成人集団への加入儀礼 (イニシエーション initiation ceremony) によって、試練が加えられ、おとなへの通過点とされた。

疾風怒濤の時代 もともとは、ゲーテなどを中心とする18世紀ドイツの文学運動。この言葉を、ホール (G. S. Hall 1846~1924) が青年期に転用し、その激しく豊かな感情生活を表現した。

モラトリアム アメリカの心理学者エリクソン (E. H. Erikson 1902~94) は、人間の生涯をライフサイクル (人生の周期) とみた。そして、青年期の自己形成過程をアイデンティティの確立という見地からとらえ、青年期を心理的社会的モラトリアムとよんだ。

先生からの一言

現代の青年は、さまざまな「~としての自分」を統合できず (自我同一性の拡散) に、自己の確立が困難 (自我同一性の危機) な状況におかれています。この結果、おとなになれない青年が急増。これをモラトリアム人間というのですが、アメリカの心理学者ダン・カイルーは、これを、ピーターパン症候群と呼びました。ピーターパンが最後の場面でこういうからです。「人間の世界はおとなになるからいやだよ」。

〈2〉 自我の発見と自己形成

超重点

1 自我(自己意識・自意識)の発見

- (1) 二つの自己——[自我]egoと自己self
- ① 自我(主體的自己)と自己(対象的自己)の発見
 - ② 「自我がみる自己」と「他者がみる自己」の発見
 - ③ 「表面の自己」と「内面の自己」の発見

「自分とはなにか？」
↓
アイデンティティの確立

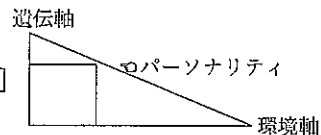
(2) パーソナリティ(personality)

- ★① パーソナリティの意味 個人がもっている行動傾向の全体, [個性]ともいう
- ★② パーソナリティの要素 知(能力)・情(気質)・[意](性格)
- ★③ パーソナリティの類型 [性格]類型ともいう

クレッチマー : 体質と気質の相関	細長(分裂) 肥満(躁鬱) 筋骨(癲癩)
[ユング] : 外界への関心度合	外向・[内向]
シュプランガー: 人格的価値の類型	理論・[経済]・審美・宗教・[権力]・社会
[リースマン]: 社会性格上の類型	[他人志向]・伝統志向・内部志向

(3) パーソナリティの形成

- ★① パーソナリティの形成要素 [遺伝]と環境
- ② パーソナリティの形成過程 個性化と[社会]化

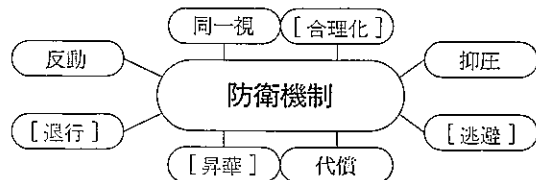


▲ルクセンブルガーの図式

2 欲求と防衛機制

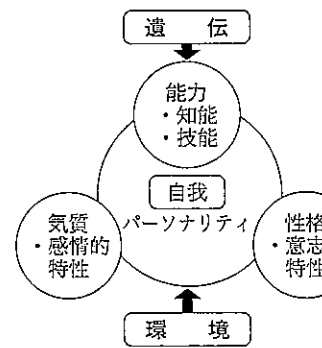
- (1) 欲求不満(frustration)——[行動]の原動力
- ★① 欲求不満耐性 欲求不満に耐えうる自我の強さ
 - ② 欲求不満⇒自我の危機⇒[防衛]反応(機制)
 - ★③ [防衛機制](defence mechanism)——心の安全装置

《自我の安全を防御する非合理・無意識的な心理作用》

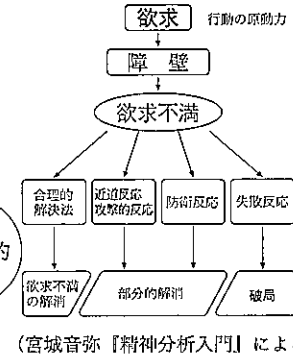


図解・資料

A パーソナリティ3要素



B 欲求と欲求不満

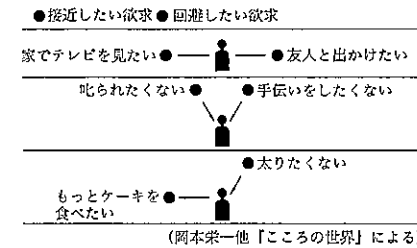


(宮城音弥『精神分析入門』による)

◎ちょっとややこしい防衛機制の用語

合理化	grape mechanism (すっぱいぶどう) sweet lemon mechanism (甘いレモン)
同一視	同一 恋物語を読んで恋をした気分になる 投入 有名タレントと同級生だと自慢する 投射 自分の欠点を他人にもあるとみなす
補償	代償 バイクのかわりに模型を買う 昇華 失恋がきっかけで詩人となる

C 葛藤の力学的関係



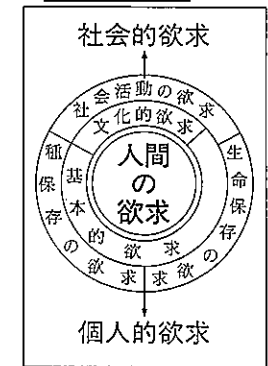
(岡本榮一他「こころの世界」による)

重要用語のチェック

欲求階層説 アメリカの心理学者マズローは人間の欲求を人間の潜在力の実現に向かう努力ととらえて、欲求階層説を唱えた。下位の欲求の満足によって上位の欲求が生まれ、進展していく。

葛藤(conflict) 人間の中では多くの欲求が対立している。この状態を「葛藤」という。これを最初に、学問的にとりあげたのが精神分析学の創始者フロイトであった。

D 欲求の分類



▲欲求の分類

先生からの一言

個人の特質を現わす言葉に個性と性格があります。個性(individuality)は分割できないものという意味ですが、心理学用語としては一般的ではなく、ペルソナ(仮面)というギリシア語を語源とするパーソナリティが使われています。性格(character)は、「刻みこまれたもの」というギリシア語が語源です。パーソナリティの一部を構成して、意志的な側面をもつと考えてよいでしょう。

〈3〉 青年と社会

超重点

1 社会集団

- (1) 社会集団 —— 一定の社会[関係]をもつ人々の集まり
- ①社会集団の意義 人間は社会集団に属し、生活様式を修得して社会化する
 - ②社会集団の変化 基礎集団⇒[機能]集団

☆(2) 社会集団の分類

人名	テンニース (1855~1936) ドイツ	[マッキーバー] (1882~1970) 米国	[クーリー] (1864~1929) 米国	ギディングス (1855~1931) 米国
基礎集団	[ゲマインシャフト] (共同社会)	コミュニティ (共同体)	[第1次集団] (face to face)	[生成社会] (自発的発生)
機能集団	[ゲゼルシャフト] (利益社会)	[アソシエーション] ([結社体])	第2次集団 (間接的な接触)	組成社会 (人為的組織)

2 核家族と高齢化社会

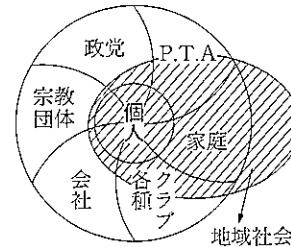
- (1) 現代家族の特質
- ☆①家族の構造的変化 大家族から[核家族]へ
 - ☆②家族の機能的変化 家族の[機能]減退⇒[社会集団]への家族機能の移行
 - ③家族の関係の変化 [制度から友愛へ](バージェス, 米国)
- (2) 高齢化社会 65歳以上が総人口の[7%]以上を占める現象(国連の定義)
- ☆①日本の高齢化の特徴 [急速]な高齢化が進行中(1970年に高齢化社会となる)
 - ②日本の高齢化の問題 予想される問題に対する短時間の準備が必要
 - ③エイジズム(老人の社会的差別) 職場・家庭・地域からの老人の[疎外]現象

3 地域社会と人間関係

- (1) 都市化 —— 失われる地域社会
- ①[都市化] 村落共同体的生活様式⇒[都市的生活]様式
 - ☆②近郊の農村蚕食現象([スプロール]現象) 都市の膨張による周辺農村の併呑
 - ③都市部の[空洞]化現象(ドーナツ化現象) 都心の地価高騰による人口の激減
- (2) 都会の人間像
- 個人主義的傾向 人間の匿名化, 「都市の空気は人間を自由にする」

図解・資料

A 社会集団への重複的な所属



複数の社会集団に所属している現代人は、同時に複数の集団意識と規範にはさまれて、葛藤をおこしやすい。

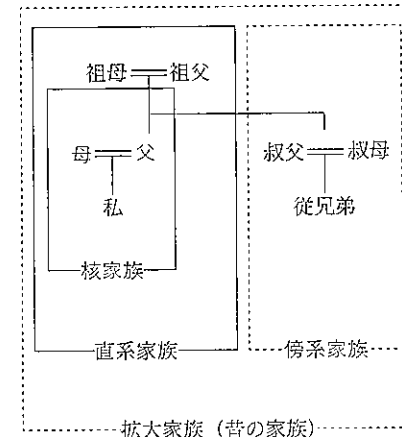
重要用語のチェック

社会集団 社会集団は社会関係を前提とする。サッカー場の観客は社会集団ではないが、サポーターは、社会集団という。

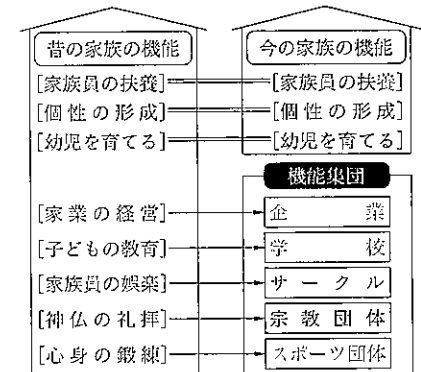
世帯 住居と家計が同じ人々をさす統計上の用語。家を離れている家族員は世帯に含まれない。

血族と姻族 親族は、血族と姻族で構成され、本人の親族を血族、配偶者の親族を姻族という。

B 家族の構造的変化



C 家族の機能的変化



先学必読の書

人間は「ジンカン」とも読みます。つまり、世間とか社会を表現する言葉でもあるのです。人間は、最初に家族集団に生まれ、成長するにつれて多くの社会集団に属するようになって、自分の習慣を形成しながら社会生活に適応できるパーソナリティを形成します。この過程を社会化(socialization)といいます。人間形成において、社会化と個性化は、表裏一体の関係にあるのです。

〈4〉 現代社会と青年

超重点

1 現代社会の特徴

(1) 大衆社会

- ①大衆化現象 教育の大衆化・[消費]と余暇の大衆化・[政治]の大衆化
 - ☆②高度資本主義社会の3つの革命 消費革命・流通革命・[情報]革命
 - ③中流意識と大量消費文化⇒新中間層(ホワイトカラー)生活水準や意識の平均化
- (2) 官僚制社会(bureaucracy M・[ウェーバー])

- ①官僚制の意義 組織の[巨大]化⇒合理的・[能率]的な運営機構として登場
- ☆②官僚制の組織 上下の位置関係に整序された[ピラミッド]型(ヒエラルキー)
- ③官僚制の欠陥 規制・ヒエラルキーの固定化・[権威]主義・[組織]の硬直

(3) 情報化社会——[脱工業化]社会(E・カーン), [第3]の波(A・トフラー)

- ☆①情報産業の発達 マス=メディア(情報媒体)による 情報の大量生産・流通
- ②大量の[情報]伝達 商業主義・情報洪水・大衆操作
- ③大衆社会の土台 情報がつくる「擬似環境」⇒[均一化]された生活様式

(4) 国際化社会——[ボーダレス](無国境)の時代

- ①経済の国際化 ボーダレス・エコノミー(無国境経済)と経済摩擦
- ②情報の国際化 国際情報網の拡大(衛星放送・国際電話・[インターネット])
- ☆③[民際]化 NGO(Non Governmental Organization 非政府組織)の役割の増大 民際外交(Civilian Diplomacy)の活発化: 平和運動・開発援助など

2 現代社会と青年

(1) 若者文化([ユースカルチャー])の問題

- ②[個室]文化 『家電』から『個電』へ(ウォークマン, ファミコン・ポケベル)
- ☆②権威主義的性格⇒[ステレオタイプ], 汚物・異物排除の論理(いじめ・差別)
- ③消費文化と青年 [コマーシャルイズム]の操作⇒つくられた欲求と流行

(2) 現代の青年の諸相

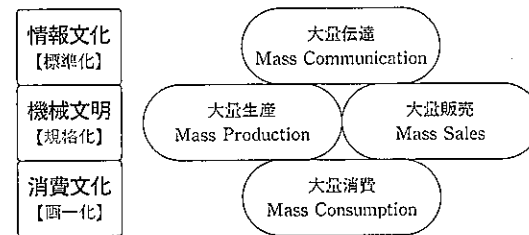
- ①判断停止と[短絡]思考(「いちおう」と「やっぱ」の反復)
- ②DK層(世論調査で「よくわかんない(Don't Know)」と答える)の激増
- ③三(六)無主義 無[気力]・無関心・無[責任]・(無感動・無規律・無作法)

(3) アイデンティティの危機

- ①高度管理社会⇒方向喪失感・[無力]感
- ②高度文明社会⇒悩まない青年の増大⇒個性化・[社会]化への停滞
- ③多様価値社会⇒おとなになれない ([ならない]) 青年の増大

図解・資料

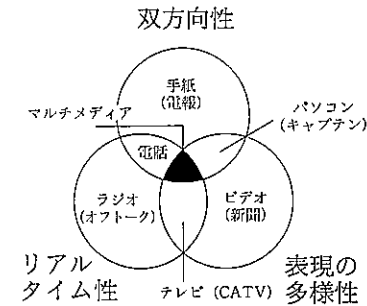
A 大衆社会 (Mass Society) と4つの Mass



B 情報革命とマルチメディア

■ 5つの情報革命とは……

- ①第1次情報革命 言語の獲得
- ②第2次情報革命 文字の発明
- ③第3次情報革命 印刷の発明
- ④第4次情報革命 通信の発明
- ⑤第5次情報革命 情報の融合



資料 大衆とは……

大衆とは、善い意味でも悪い意味でも、自分自身に特殊な価値を認めようとはせず、自分は「すべての人」と同じであると感じ、そのことに苦痛を覚えるどころか、他の人々と同一であると感じることに喜びを見い出しているすべての人のことである。(オルテガ「大衆の反逆」)

重要用語のチェック

テクノクラート 科学的知識や技術をもつ専門技術者で、社会の意志決定に重要な影響力を行使しうる階層。ウィリアム・スミスは産業は社会全体の利益を中心に管理されるべきで、それには優秀な技術者が主導権をもつテクノクラシー(technocracy)の実現が必要だと主張した。

権威主義的性格 現代人の特徴。フロムが『自由からの逃走』で指摘した。特徴を整理すると、①中流意識による消費生活と生活感情 ②画一的で標準的な大衆文化の影響 ③巨大な管理社会の中での孤立感 ④膨大な情報量の前での判断停止
このような権威主義的性格をもつ現代人は情報操作に影響されやすいという危険性がある。

先生からの一言

「砂のような大衆」「自動人形化」(フロム), 「甲羅のないカニ」(マンハイム)。いずれも、現代の複雑で巨大な社会構造から疎外されつつある大衆を表現する言葉です。リースマンも、現代人の社会的性格を「他人志向型」と規定して、いつも他人にリーダーを向けていて、他人と同調しながら行動し、漠然とした不安の中に生きている現代人を、「孤独な群集」と表現しました。オルテガは、現代人の姿が青年特有の甘えに似ていることから、「満足している青年」と表現して、「すすんで疎外されつつある」大衆化現象を警告しています。

〈5〉 人間を考える

超重点

1 人間とは

(1) 学習する動物

- ☆①生理的早産 不完全な状態での誕生⇒学習による無限の可能性
- ②[習慣]の束(ジェームス) 社会的学習による習慣形成⇒人格形成
- ③学習能力を土台とする二大手段([道具]と言語)の創造⇒文化形成

(2) 文化をもつ動物

- ①道具を使う動物⇒[道具]をつくる動物⇒道具を使って[道具をつくる]動物
- ☆②文化(culture 人間社会の[全生活様式]) 人間が社会生活で作り上げた成果
- ③文化の種類
 - 物質的文化: 道具・[機械]・建物・交通手段
 - [精神]的文化: 宗教・芸術・[哲学]・道徳・科学
 - 制度的文化: 慣習・伝統・[法律]・制度

(3) 社会的動物

- ☆①人間は社会生活の中で[人間性]を作り上げる
- ②[社会化](socialization) 人間が社会的存在となる過程
- ③社会化の[心理]過程 模倣・学習・適応・同化

2 生命の尊厳

(1) 生命倫理(バイオエシックス bioethics)

- ①生命工学(Bio technology)の発達⇒遺伝子交換・複製生物(クローン)の製造
- ②人間の[尊厳]を求める人権運動⇒1970年代のアメリカに成立した学問領域
- ☆③生命科学と医療における人間の行為を倫理原則の見地から検討する研究

(2) 生物的生命保存から生命の質(Quality of Life)へ

- ①人工[延命]装置・生殖技術の発達⇒「誕生・生・死」の[生命]操作
- ②インフォームド・[コンセント](informed consent 説明と同意)の原則
- ③ターミナル・ケア(末期医療) 苦痛を延ばす延命治療⇒苦痛緩和治療へ

(3) 死の尊厳と生命への畏敬

- ①リビング・ウィル(living will 生存中の遺言)⇒[尊厳死](安楽死)の問題
- ②死の判定 脳死と心臓死の論争⇒[臓器移植]の問題に関連
- ③人工受精 [試験管]ベビー(精子バンクと代理母)⇒生命の畏敬の問題

3 人間の尊厳

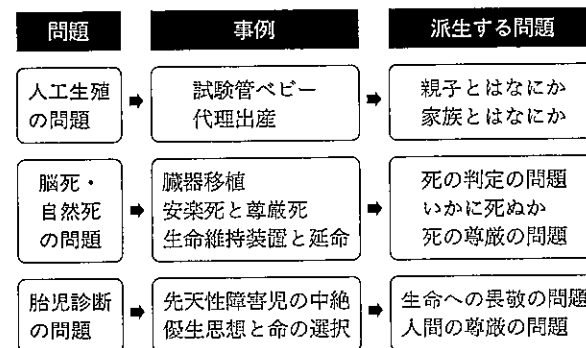
- (1) 人間の尊厳 生きる[意味]を求める存在としての自覚⇒倫理観の確立
- (2) 自然の生命と人間の生命の調和⇒宇宙船[地球号]⇒現代の課題

図解・資料

A 人間——この未知なるもの——(カレル Alexis Carrel 1873~1944)

homo erectus	直立猿人 (デュボア)	手の解放と脳の発達。人間の始まり。
homo habilis	器用人 (リーキー)	道具を使う人。
homo faber	工作人 (ベルグソン)	道具を作る人。
homo sapiens	思考人 (リンネ)	道具を使って道具を作る人。
homo ludens	遊戯人 (ホイジンガー)	遊びこそ人間と文化の本質。
homo loquens	言語人 (ケーラ)	言語を持つ動物
homo symbolicum	象徴的動物 (カッシラー)	高度な道具である記号をもつ動物。
zoon politikon	社会的動物 (アリストテレス)	人間は社会生活によって人間となる。

B 生命倫理の諸問題の一例



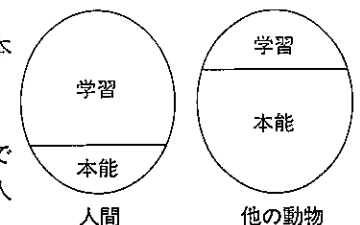
重要用語のチェック

記号 人間が用いる記号(sign)には、自然的な記号としての信号(signal)と作為的な記号としての象徴(symbol)がある。
神話・宗教・芸術・学問は、象徴活動として生み出され、発達してきた。

先生からの一言

「ひとり汝のみはなんらの制限によっても束縛されていないが、これは汝が、汝の自由にまかされた意志に従って、汝の性格を形成することができるためである」ピコ・デラ・ミランドラという言葉です。

人間以外の動物には、誕生とともに完全な本能在備わっているのに、人間にはありません。これを生理的早産といいますが、このことが、かえって、人間に無限の可能性を与えるのです。他の動物は生まれたときがゴールでも、人間にとっては誕生がスタートなのです。



〈6〉 哲学のめばえ

超重点

1 ミュトス(神話)からロゴス(理性)へ

(1) ミュトスの時代

- ①ギリシア神話 オリンポス十二神による世界の説明
- ☆②ホメロスの『イリアス』、『オデュッセイア』(トロイ戦争を題材)
- ☆③ヘシオドスの『神統記』(神々の体系)、『仕事と日々』(教訓詩)

(2) [ロゴス]の時代

- ☆①ロゴス(理性)による世界の説明
- ☆②[テオリア](観想)による客観的な思考態度
- ③[神話]的な世界観から理性的な世界観への思考の転換

2 フィロソフィア(philosophia 愛知)の誕生

(1) 自然への問い——自然哲学

- ☆①[アルケー](万物の根源, 始源)の探求
- ☆②B.C. 6世紀, イオニア地方のミレトスに始まる
- ☆③代表的思想家 [タレス](哲学の父)

(2) 社会への問い——ソフィスト

- ☆①絶対的な真理の否定⇒真理の[相対]化
- ②B.C. 5世紀, 民主政治のアテネを中心に展開
- ☆③代表的思想家 [プロタゴラス], ゴルギアス

(3) 自分への問い——ソクラテス(倫理学の父)

- ①「[善く生きること]」を求めて
- ②「徳」の探究⇒倫理学を創始
- ③ギリシア思想の総合にして原点

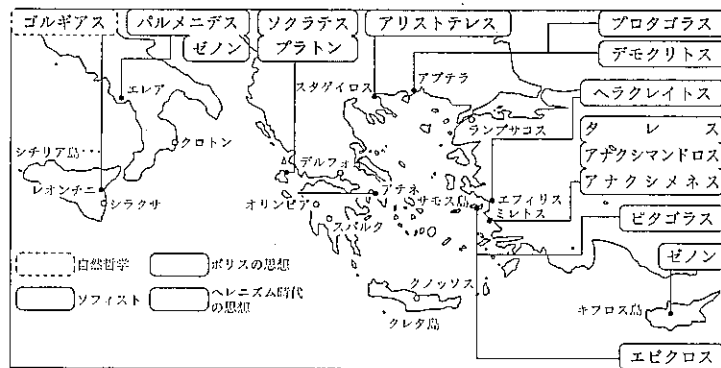
問い自体が未分化
ギリシア神話

自然への問い
自然哲学

社会への問い
ソフィスト

自分への問い
ソクラテス

▲問いの発見と思想のながれ



▲古代ギリシアの思想家の出身地

図解・資料

A 自然哲学3派

* () アルケー、「』」ことば

イオニア系 ミレトス学派	イタリア系 ピタゴラス学派	エレア学派
タレス (水) アナクシマンダロス (無限) アナクシメネス (空気)	ピタゴラス (数) 靈魂不滅説 『肉体は魂の牢獄』	パルメニデス(有) 『不動の實在』 ゼノン 弁証法の祖 『アキレスは亀を 追い越せない』
ヘラクレイトス (火→空気→水→土) 『万物は流転する』	* コスモス(宇宙) は、調和秩序が語 源。	
デモクリトス (原子)		

- (1) 自然哲学はギリシア本土よりも植民地で発展した。
- (2) イオニアは経験的、イタリアは観念的傾向をもつ。

B ピュシスとノモス

自然哲学者⇒ピュシス(自然・必然の世界)⇒絶対的真理

ソフィスト⇒ノモス(社会・人為的世界)⇒相対的真理

資料 ソフィストのことば

プロタゴラス(人間尺度論) 「人間は万物の尺度である」
 ゴルギアス(知識否定論) 「なにも存在しない。存在するとしても認識されない。認識されるとしても伝えられない」

先生からの一言

ソフィストは「知識人」の意味で、報酬をとって弁論術を教える職業教師をいいます。弁論術の創始者といわれたシチリアのコラクスには、おもしろい逸話があります。彼にはティシアスという弟子がいて、その弟子はいっこうに授業料を支払わないのです。ある日、彼は授業料を支払わないと訴えましたが、弟子は裁判でこう弁論したのです。「この裁判は授業料の支払いをめぐる裁判ですが、これに敗れたとしても支払いません。なぜなら、敗れた原因は、先生が私に充分な弁論術を教えていない証拠だからです」と。

重要用語のチェック

フィロソフィー 愛知。
 「知恵(sophia)を愛す(philein)」が語源。それを「哲学」と翻訳したのは、西園の『百一新論』であった。

生成と存在 ヘラクレイトスは、万物は「なる(生成)もの」と主張。反対に、パルメニデスは、不生不滅・不変不動の「ある(存在)もの」のみがあるとして、「一にして全」なる「不動の實在」を主張した。この生成と存在の論争はその後の西洋哲学の重要テーマとなった。

ロゴスとテオリア ロゴスは「論理 logic」、テオリアは「理論 theory」の語源。ロゴスは言うという動詞から転じて「理性」の意味をもつ。テオリアは観るという動詞から「劇場 theatre」がうまれた。

〈7〉 ソクラテス

超重点

1 ソクラテス(B.C.469~B.C.399)

(1) ソクラテスの時代

- ①誕生 アテネに誕生。父は石大工，母は助産婦(産婆)
- ②政治 民主政の変質(衆愚政)と扇動家(デマゴグ)の暗躍
- ☆③世相 うまく生きる人生観(処世術)の流行

(2) デルフォイの神託

- ★①神託の内容 [ソクラテスにまさる賢者はいない]
- ★②神託の解明 [善美]の事柄について無知なことを知る⇒「無知の知」の発見
- ③神託の意味 「真の賢者」とは「真の知」を求める人⇒「汝自身を知れ」

(3) フィロソフィーに対する根源的な問い

- ★①人間の生き方の[普遍]的な原理を探した最初の人⇒『倫理学の祖』
- ★②人間の徳は「善く」生きること⇒「[うまく]生きる」処世術批判
- ☆③徳([アレテー])の復権を求めて⇒善美の事柄の探究

2 ソクラテスの課題 善く生きること

(1) 真理探究の方法 —— [問答法](産婆術・助産術)

- ★①問答法 人々を「[無知]の自覚」にいたらせる方法
- ②無知の自覚(哲学の出発点)⇒[真の知]を求める
- ★③[魂への配慮] 精神(魂)をすぐれたものにする努力

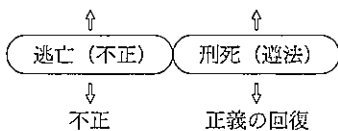
(2) 真の知を求める=徳(アレテー)の探究

- ★①[知徳]合一 知を欠いた徳はありえない
- ☆②[知行]合一 善を知らないから悪を行う
- ☆③福德一致 理想は知と徳と幸福の一致した状態

(3) ソクラテスの死 —— 「善く生きる」ことの実践=「善く死ぬ」⇒徳の完成

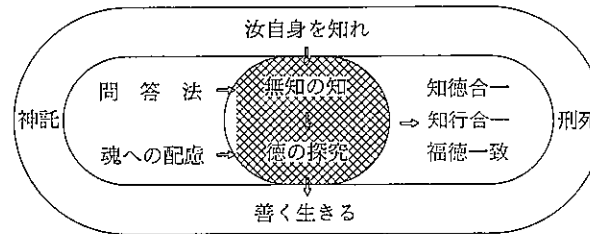
- ①事実無根の告発による裁判
- ②不公正な裁判による死刑判決
- ③友人達の逃亡のすすめを拒否

不公正な裁判

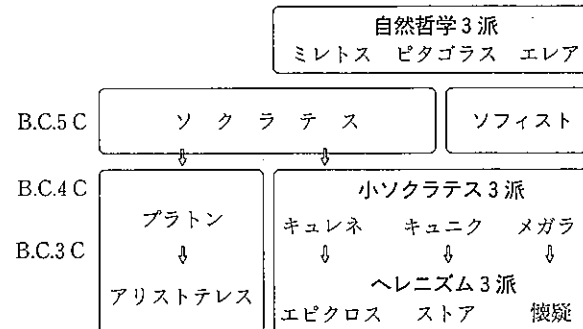


図解・資料

A ソクラテスの思想



B ギリシア思想の流れ



重要用語のチェック

汝自身を知れ デルフォイのアポロン神殿の柱に刻まれていた標語。ギリシア七賢人のひとりスパルタのキロン言葉。もともとは「身のほどを知れ」という意味だが、ソクラテスは、無知を自覚せよという意味に解釈して、真の知へいたる出発点とした。

デルフォイの神託 ソクラテスの友人カイレポンが、デルフォイで「ソクラテスより知恵のあるものはいない」という神託を受けた。この謎を解くためにソクラテスは知識人と問答を始め、「無知の知」を発見する。

問答法 産婆術・助産術対話法ともいい、無知を自覚させ、それを出発点として真の知に到達する方法。相手の心が真理を生み出すのを手助けする方法だとして、母の職業を模して助産術という。

資料 無知の知

私は、彼と別れて帰る途中で、自分を相手にこう考えたのです。この人間より私は知恵がある。なぜなら、この男も私も、おそらく善美の事柄はなにも知らないらしい。だが、この男は知らないのになにか知っているように思っている。だから、このちょっとしたことで、私のほうが知恵があることになるらしい。つまり、私は、知らないってことを知っている。ただそれだけのことで、まさっているらしいのです。(プラトン「ソクラテスの弁明」)

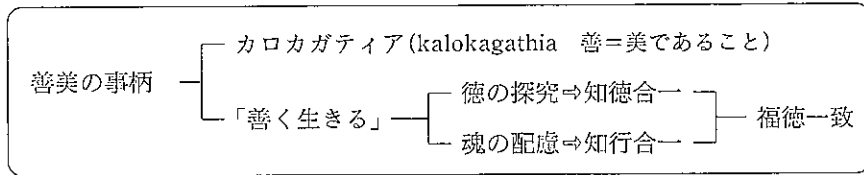
先生からの一言

BC 399年、ソクラテスを告発したのは、詩人のメレトス・職人のアニュトス・演説家のリュコンの三人でした。「国家の神々を信ぜず、青年を墮落させた」と言うのです。ソクラテスは法廷で弁護したのですが、死刑の判決を受けてしまいました。友人達は逃亡を勧めますが、ソクラテスは「悪法といえども国家の法に従うべき」といって毒杯を飲み静かに死んだのです。70歳でした。

《8》 プラトンとアリストテレス

超重点

1 ソクラテスの課題 ⇒ 「善美の事柄」とはなにか



2 プラトン(B.C.427~B.C.347) : ソクラテスの課題の忠実な継承者

(1) 理想主義の祖

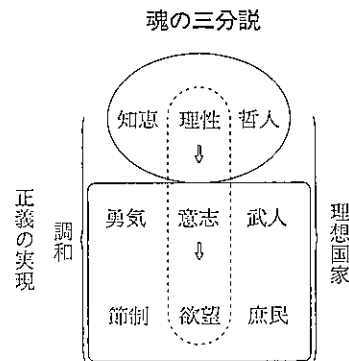
- ★①イデア論 現象界とイデア界の[二元論]的(断絶した)世界観
- ★②魂の三分説 理性・[意志]・欲望
- ★③[四元徳] 知恵・勇気・節制・[正義]

(2) 人間論・国家論

- ①最高のイデア [善のイデア]
- ②理想的人間像 善美の人
- ★③理想的国家像 [哲人政治]

(3) 学園[アカデメイア]の設立

- ①アテネ郊外のアカデモスの森に設立
- ②政治家(哲人)の養成が目的



3 アリストテレス(B.C.384~B.C.322)

(1) 現実主義

- ★①エイドス論 質料[ヒュレー]と形相エイドスの一元論的(連続した)世界観
- ★②[中庸]の徳 現実の経験や習慣を重んじる倫理学を展開
- ★③[観想的生活] 幸福な生活(最高善)=政治的生活への献身

(2) 人間論・国家論

- ★①国家は人間の存在根拠 「人間はポリス(政治)的動物である」
- ★②国家形成の原理 幸福は国家のなかにある

国家の結合原理 友愛(フィリア)

国家の秩序原理 正義⇒配分的正義と調整的正義

③国政の腐敗形態の研究

(3) 学園[リュケイオン]の設立

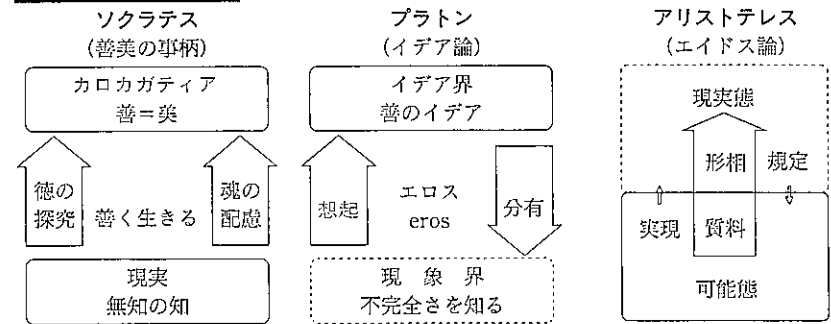
- ①逍遥([ペリパトス]:散歩する)学派
- ②古代の学問の集大成者 「万学の祖」

◎二つの政治形態とは……

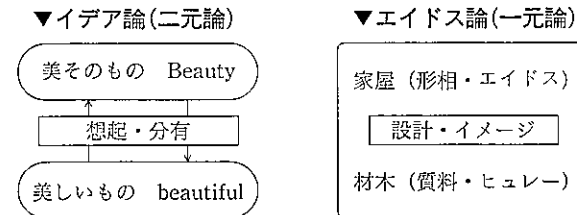
- 王政⇒[独裁]政治
- 貴族政⇒[寡頭]政治
- 共和政⇒[衆愚]政治

図解・資料

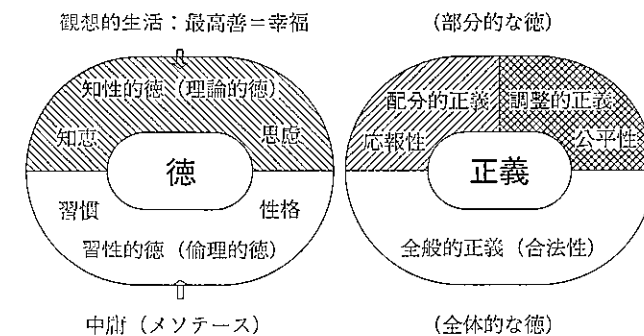
A ポリテースの思想



B イデア論とエイドス論



C アリストテレスの徳と正義の構造



【重要用語のチェック】

エトスとエートス エートス (ethos 性格) は、エトス (ethos 習慣) をその語源としている。中庸をえた行為は教育のなかで習慣化されて性格となり、個人の徳となるという考えから出てきた言葉。「倫理 (ethics)」は、この言葉を語源としている。

中庸 習性的徳において中庸を守ることが基準となる。中庸とは過不足のない調和をいう。

◎半からの半◎

アリストテレスは、マケドニアの王子の家庭教師だったことがあります。王子は、14歳から21歳まで哲学者に学んだのですが、この王子こそ、アレキサンダー大王だったのです。哲学者もまた、古代ギリシアのあらゆる学問を総合して体系化したのですから、こういえるかもしれません。つまり、先生が天上の世界を統一したとすれば、その弟子が地上の世界を統一したのだと。

〈9〉 ヘレニズム時代の思想

超重点

1 ヘレニズム(hellenism)時代

(1) [アレキサンダー]大王帝国の出現

- ①大王の東征とコスモポリス([世界]国家)の建設
- ②帝国のなかで、ポリス([都市]国家)が消滅した
- ③ポリス的生活の破綻とその人生観世界観の変更

(2) 個人主義的哲学の誕生

- ①[コスモス](宇宙・世界)に投げ出された個人
- ☆②[アトム]的な存在としての個人の自覚と不安
- ③ポリスにかわって個人を守るものはなにか?

(3) コスモポリタニズム([世界市民主義])

- ☆①コスモポリテース(世界市民)の生き方の探究
- ②確固たる存在根拠と平常心や不動心を求める
- ☆③理性の重視⇒理性は万人に与えられている

2 ヘレニズム3派

(1) エピクロス派(開祖 [エピクロス] B.C.342~B.C.271)

- ☆①[快楽主義] (唯物論, 快楽=幸福)
- ☆②[隠れて生きよ] (政治や公共生活への不参加)
- ☆③[アタクシア] 永続的で精神的な快楽(平静心)

(2) ストア派 (開祖 [ゼノン] B.C.336~B.C.264)

- ☆①[禁欲主義] (理性の支配)⇒キリスト教に影響
- ☆②「[自然]に従って生きよ」⇒自然法思想に影響
- ☆③[アパティア] 情念によって動じない心(不動心)

(3) 懐疑派(開祖 ピュロン B.C.360~B.C.270)

- ①懐疑主義(事物の本性は認識できない)
- ②判断の誤謬が心の動揺の原因であるとする
- ③エポケ 判断を停止して動揺の原因を排除する

3 ローマ時代の思想家

- (1) エピクロス派 ルクレチウス
- (2) ストア派 セネカ, エピクテトス, [マルクス=アウレリウス]
- (3) 懐疑派 [キケロ]

《ギリシア・ヘレニズムの流れ》

ギリシア神話

B.C.8C
・ホメロス
・ヘシオドス

自然哲学

B.C.6C
・[タレス]
・ピタゴラス
・パルメニデス

ポリスの哲学

ソフィストの哲学

B.C.5C
・[プロタゴラス]
・ゴルギアス

ソクラテスの哲学

・ソクラテス
・[プラトン]
・アリストテレス

コスモポリスの哲学

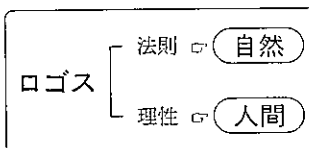
B.C.4C
・エピクロス
・[ゼノン]
・ピュロン

◎ストア派の語源は……
ゼノンがアテネのストア・ポイキレ (Stoa-poikile 彩画柱廊) に学校を開いたことからその名がついた。

図解・資料

A ロゴスの支配

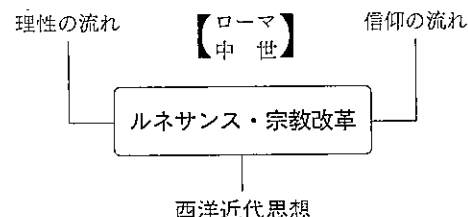
- ①自然はロゴスに支配されている
- ②人間は内面にロゴスを分有する
- ③人間のロゴス=自然のロゴス



B 『2つのH』は、西洋の思想の源流である

ヘレニズム (Hellenism)
ギリシア・ヘレニズム思想

ヘブライズム (Hebraism)
ユダヤ・キリスト教思想



資料 エピクロス派とストア派のことは

「ひとかけらのパンと水さえあれば、ゼウスと幸福を競うことができる」 (エピクロス『書簡』)
「おまえはロゴスをもっているか。——もっている。一ならば、なぜにそれを使わぬのか。理性が理性本来の働きを果たしているとき、そのうえ、おまえはなにを欲するとでもいうのか」 (マルクス=アウレリウス『自省録』)

先生のつぶやき

二人のゼノンについてお話ししましょう。一人は「キプロスのゼノン」で、ストア派の開祖。もう一人は「エレアのゼノン」で、『アキレスは亀をおいこせない』とか『飛ぶ矢は止まっている』という逆説で知られ、ソフィストに影響を与えた人です。二人は奇妙な死に方をしました。キプロスの人は、階段で足を挫いて、そのまま息を止めて死にました。エレアの人は、暴君の悪政に抗議して、舌を嚙んで死んだのですが、死体は白で粉々にされたのです。

重要用語のチェック

ヘレニズム 「ギリシア風」の意味。ギリシア人から造語。「Hellen」が『ヘレニズムの歴史』で使用した。ヘレニズム時代は、アレキサンダー大王によるペルシア帝国の滅亡からアウグストゥス皇帝によるエジプト王国の滅亡までの三百年間をさす。なお、ヘレニズム時代を“hellenistic”古代ギリシア時代を“hellenic”ともいう。

アトムの個人 ストア派は、自然を支配しているのはロゴスで、人間では理性。理性的人間こそ平等であると考えた。これが世界市民主義。

エピクロス派は、世界をアトムと空間で構成されていると考えた。

アトム論を展開した自然哲学者デモクリトスも、この時代の人。

〈10〉 ユダヤ教

超重点

1 ユダヤ教の成立

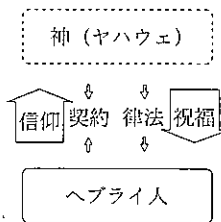
- (1) ユダヤ教 唯一絶対の神を信仰するヘブライ人の[民族]宗教
- ☆①[ヤハウェ] 天地創造主。唯一神・人格神・啓示の神・裁きの神
 - ☆②民族的苦難(「出エジプト」「[バビロン]捕囚)のなかで成立
 - ☆③旧約聖書 [ユダヤ]教の聖典。千年にわたる民族的苦難の歴史書
- (2) 民族的苦難とユダヤ教の成立
- ☆①「[出エジプト](エジプト脱出)」
エジプトの圧政を逃れて、「約束の地カナーン」への苦難の旅
指導者 [モーセ]と神とのシナイ山での契約⇒『モーセの十戒』
 - ②ヘブライ王国の建国とその分裂
カナーンの地に王国の建設⇒ダビデ王・[ソロモン]王の栄華
ソロモン王の死後、王国の分裂(南のユダヤ王国と北のイスラエル王国)
 - ③「[バビロン捕囚]」⇒王国の滅亡による新バビロニア王国での奴隷生活
解放後の流民生活⇒[民族的]苦難の再開⇒『旧約聖書』とユダヤ教の成立

2 旧約聖書(旧約宗教)の思想

(1) 契約の宗教

- ☆①[契約]思想 民族と神との権利義務の関係
- ②神の義務(祝福) 民族を救済し、繁栄を約束する
- ③民の義務(信仰) 神の啓示を信じ、律法をまもる

《契約と律法》



《民族の祖アブラハムとヤハウェとの契約》

わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み全き者であれ。わたしはあなたと契約を結び、大いにあなたの子孫を増すであろう。(『旧約聖書 創世記』)

(2) 律法主義

- ☆①律法の意味 ヤハウェが民族に示した生活全般の[戒律]
- ☆②最古の律法 ヤハウェがモーセに示した[モーセの十戒]
- ☆③律法主義 信仰の[形式化]・儀式化

(3) ユダヤ教の[3つの柱]

- ☆①選民意識 特別の使命と恩恵を受けた「神の民」としての[民族意識]
- ☆②終末観 最後の審判で「神の民」だけが救済される
- ☆③[救世主思想] 国家再興の民族的な悲願を実現する指導者(英雄)待望論

図解・資料

A ヘブライ民族の歴史と旧約聖書の構成

『モーセ五書』	創造神話 (B.C.) 出エジプト 1250	旧約宗教
『歴史書』	王国の建設 1006 ソロモンの栄華 965	
『予言書』	王国の分裂 926 バビロン捕囚 596	ユダヤ教
『黙示録』	イエスの時代	

《重要用語のチェック》

ヘブライ人 パレスチナ地方のセム系遊牧民族。イスラエル人、ユダヤ人ともいう。ユダヤ・キリスト教の信仰体系をヘブライズムという。

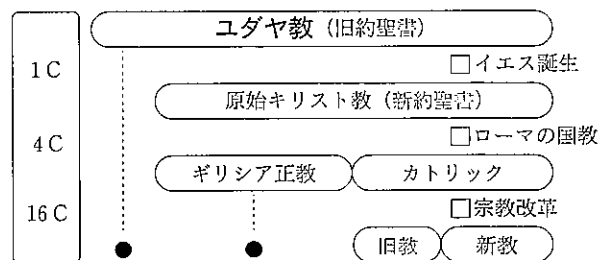
ヤハウェ 「在りて在るもの」という意味。エホバともいわれている。

モーセ五書 旧約聖書。天地創造・アダムとイヴに始まる最初の五書。創世記・出エジプト記・レビ記・民数記・申命記。

律法主義 祈りの長さや回数など細かく決められた。イエスが「信仰の形式化」と批判した。

救世主(メシア) 預言者イザヤがダビデの一族から民族の救済者が現われると予言して以来、救世主が民族の希望となった。メシアはヘブライ語。ギリシア語訳がクリストス(キリスト)。

B ユダヤ教とキリスト教の系譜



資料 モーセの十戒

- (1) あなたはわたしのほかに、ほかの神々があつてはならない
- (2) あなたはわたしのために、刻んだ像をつくつてはならない
- (3) あなたは、あなたの神の名を、みだりに唱えてはならない
- (4) 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ……

◎◎◎◎◎

旧約聖書も新約聖書もキリスト教の聖典です。「旧約」を文語体、「新約」を口語体と勘違いしている人がいます。「約」は、契約の意味で、旧約聖書は、ヘブライ民族の歴史や神との契約を記してあって、いろいろな文書から成り立っています。新約聖書は、イエスを介して神と人間の新しい契約の内容を記したものです。27個の文書の集まりで、4世紀ごろにまとめられたものです。

《11》 キリスト教

超重点

1 原始キリスト教の成立

- (1) キリスト(メシア, [救世]主)の誕生
 - ① 30歳 バプテスマ・ヨハネの[洗礼]を受ける
 - ② [神の子]としての自覚⇒布教開始
- (2) 山上の垂訓(イエスの最初の説法)

時は満ちた。神の国は近づいた。 (①)
悔いあらためて (②) 福音を信ぜよ。 (③)

- ① [終末] 罪から解放され、愛が意味をもつ世界の到来
 - ☆② [贖罪] 罪(原罪)への謙虚な自覚こそが救の前提
 - ☆③ 福音(Gospel) 神の国の到来という[喜ばしい]預言
- (3) 原罪(sin) 犯罪(crime)とは異なる
- ① 神の意志に背反する人類の罪⇒[エゴイズム]
 - ② 人類は罪深き存在であるという自覚が根底にある
- ☆③ 原罪を克服するには、神の愛を信じるしかない

2 イエスの黄金律

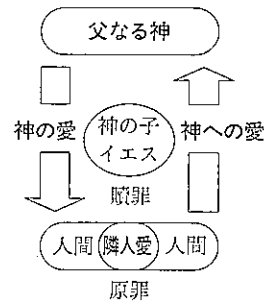
(1) アガペー [神の愛]

- ☆① キリスト教の神は「愛の神」ともいえる
- ☆② [下降]愛 [無差別]・平等の愛, [無償]の愛

(2) アガペー [神への愛と隣人愛]

☆イエスは「2つの律法」しか定めなかった

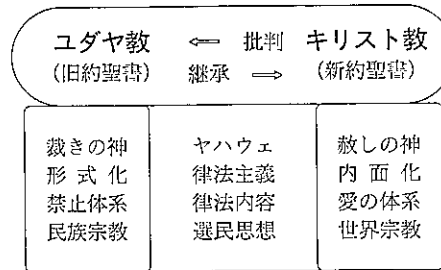
- * 「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして主なるあなたの神を愛せよ」
- * 「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」



- (3) アガペーの実践 イエスの[十字架]の死
- ☆① キリスト教の神は「贖い赦す神」でもある
 - ② 人類の罪を贖うための神の自己犠牲的な愛
 - ③ イエス(神のひとり子)の死=贖罪の行為

図解・資料

A ユダヤの律法とイエスの律法

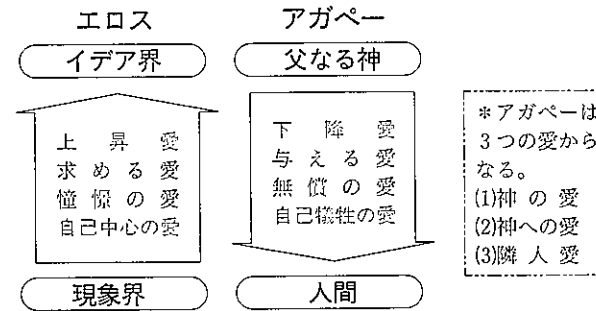


重要用語のチェック

福音 喜ばしい知らせ。神の国の到来の喜ばしい知らせや、イエス自身の言行をいう。

山上の垂訓 イエスがオリブ山で行った説教。「マタイによる福音書」の第5章にあたる。

B エロス(ギリシア的愛)とアガペー(キリスト教の愛)



資料 山上の垂訓

「心の貧しい人達は、さいわいである。天国は彼らのものである」「天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも正しくない者にも雨を降らせてくださる」「もし、誰かがあなたの頬を打つなら左の頬もむけてやりなさい。敵を愛し迫害するもののために祈れ。」 (『マタイによる福音書』第5章)

先聖の歩み

大エヨゼフとその婚約者のマリアの子としてベツレヘムの馬小屋で生まれたイエスは、30歳から宣教を始めますが、ユダヤ人の反感をかいました。ユダヤ人の救世主は民族復活を指導する英雄であって、人類愛を語るような男ではなかったからです。こうして、「出エジプト」を記念する「過越祭」の木曜日、最後の晩餐を祝ったのち、弟子ユダの裏切りで捕えられ、翌朝、ゴルゴダの丘で十字架にかけられて死にました。

〈12〉 キリスト教の発展

超重点

1 原始キリスト教団の成立

- (1) イエスの弟子(アポストロイ)——『十二使徒』
- ① [復活]信仰によるキリスト教団の確立
 - ② ペテロ [十二使徒]のひとり。イエスの復活の証人
 - ③ ローマ帝国の迫害(皇帝ネロの迫害は有名)と殉教の歴史
- (2) パウロの思想

- ☆① 神による[贖罪] 「イエスの十字架の死」の意味を神の自己犠牲の愛と解釈
- ☆② [信仰義認]説 「信仰によってのみ[義]とされる」
- ☆③ 異邦人への伝道旅行⇒キリスト教が世界宗教となる基礎

2 アウグスティヌス(354~430) ——[教父]哲学の代表者

- (1) ローマ=カトリック教会の権威の確立の時代
- ① ローマ帝国によるキリスト教の[公認](313)と国教化(329)
 - ② 公会議(宗教会議)における教義論争⇒『三位一体』論争
 - ③ ローマ・[カトリック](正統、普遍的の意味)教会の設立
- (2) [教父哲学] 古代キリスト教神学

- ☆① 教父哲学 正統教義の確立に努めた神学者の哲学
- ☆② [恩寵]思想 原罪をもつ人類を赦し愛するという神の恩恵への信頼
- ③ 教会と[神父]の意義 神の恩寵を媒介する聖所。神の代理人

(3) 教父哲学とプラトン哲学との結合

- ☆① 二元論的世界観 プラトンの[イデア界]を「神の国」と同一視
- ② 歴史の展開 神の国(イデア界)と[地上の国](現象界)の戦い
- ☆③ キリスト教の[三元徳] 信仰・希望・愛

3 トマス・アクィナス(1225~74) ——[スコラ]哲学の大成者

(1) [スコラ哲学] 中世キリスト教神学

- ☆① スコラ哲学 教会付属の学校(スコラ)で学僧が説いた哲学
- ☆② 理性と[信仰]の調和⇒「理性は信仰によって支持される」
- ☆③ 神は自然の真理を包括する⇒[哲学は神学の侍女]

(2) アリストテレス哲学との結合

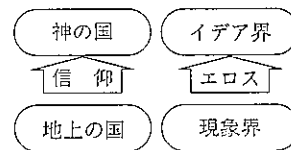
- ☆① 目的論的世界観 アリストテレスのエイドス論を応用
- ② 神の被造物(自然・人間) 神に向かい努力する存在
- ③ 封建的階層秩序(ヒエラルキー)の正当化



図解・資料

A 二元論的世界観

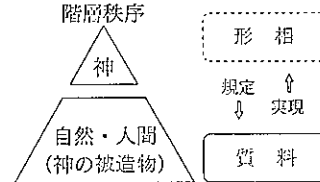
□ アウグスティヌスの世界



プラトンの世界

B 目的論的世界観

□ トマス・アクィナスの世界



アリストテレスの世界

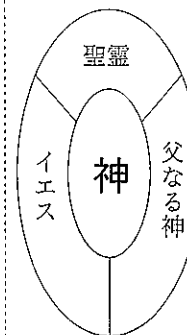
資料

二つの愛が二つの国を作った。すなわち神をいやしむ自己愛が地上の国を作り、他方自分をいやしむ神への愛が天上の国を作ったのである。

(アウグスティヌス『神の国』)

理性によって探求される哲学的諸学問のほかに、啓示を通して聖なる教えを受けることは必要であった。…人間の認識能力を超えることがらを、人間が理性によって詮索するのはたしかにまちがっている。しかし神によって啓示されたならば、信仰をもってこれを受け容れなければならない。

(トマス・アクィナス『神学大全』)



▲三位一体説

重要用語のチェック

原始キリスト教 イエスの死から150年間のキリスト教。使徒を中心に、イエスを救世主と認め、復活を信じ、宣教活動を行い、教団組織と新約聖書を成立させた。

三位一体説 イエスは人間か神か。この問題は教義確立の上で重要であった。「神は唯一である」という原則と「イエスにも聖霊にも神性がある」という矛盾を調停するため持ち出された理論。父と子と聖霊は、3つの位格(姿)をもちながら、神性において唯一神であるというのである。

三元徳と四元徳 ギリシア四元徳(知恵・勇気・節制・正義)とキリスト教三元徳(信仰・希望・愛)を西洋の七元徳ともいう。

パウロとアウグスティヌスについてお話ししましょう。ふたりは異教徒でした。パウロはユダヤ教のラビ(教師)で、キリスト教徒の迫害にでかける途中で雷光にうたれ、イエスの声を聞き回心したといわれています。アウグスティヌスは、父は異教徒でしたが、母モニカはキリスト教徒でその敬虔ぶりを嫌っていました。それで、カルタゴに遊学してマニ教やプラトン哲学に救いを求めたのです。しかし欲望にさいなまれる自分から解放されませんでした。自己嫌悪の失意にあるとき、母が死に、子供の歌声が隣家から聞こえてきたのです。「とれ、読め。とれ、読め」と。そんな歌はないので、その意味を考えました。突然あふれる涙とともに、聖書を開き、目に止まった箇所を読んだのです。

〈13〉 イスラム教

超重点

1 ムハンマドの思想 (Muhammad 570~632)

- (1) [アッラー]の啓示——「起きて警告せよ」
- ①ムハンマドの誕生 メッカの名門クライシュ族のハーシム家に誕生
 - ②幼少で孤児となる 隊商旅行でユダヤ・キリスト教の影響を受ける
 - ③40歳で啓示をえる ヒーラ洞窟で啓示を受け、[預言者]として布教開始
- (2) イスラム暦元年——622年 ヒジュラ(聖遷)
- ①宗教弾圧 メッカの支配層による弾圧
 - ☆②[ヒジュラ](聖遷) 宗教弾圧を避け、[メッカ]から[メジナ]へ逃亡する
 - ③アッラーに帰依する社会の建設⇒多神教の部族社会の否定
- (3) 唯一神アッラー
- ☆①アッラー Al-lah (Alは定冠詞, lahは神), アブラハムの神
 - ☆②[イスラム](絶対的帰依) 唯一神アッラーへの信仰
 - ☆③ムスリム(教徒) 六信を受け入れ、五行の実践を誓った者
 - [六信]——信仰の柱(信仰対象)
 - [五行]——宗教活動(実践対象)
 - ④[啓典の民](ユダヤ・キリスト・イスラム教徒) 唯一神の天啓聖典をもつ民

2 イスラム教の聖典

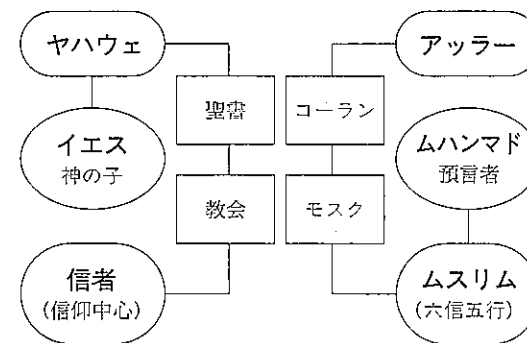
- (1) [コーラン](クルアーン, 読誦されるもの)
- ☆①全114章 ムハンマドを介して語られた[神の啓示]が記されている
 - ②その内容 [最後の審判], 信仰生活や世俗生活において守るべき戒律
 - ☆③法と道徳の融合⇒シャリーア(イスラム法)

3 世界宗教イスラム教

- (1) イスラム教の特色
- ①[終末思想]と最後の審判(神と交わした貸借対照表による)⇒自己責任の原則
 - ☆②[偶像]否定⇒ムハンマドは神ではない
 - ☆③[平等]主義⇒民族・身分・信徒の階層制(聖職制度)の否定
- (2) 民族宗教から[世界宗教]へ
- ①民族・国家の枠を越えて⇒信仰共同体(ウンマ)の形成
 - ②アラブ民族宗教から世界宗教への発展
- (3) 教団の分裂 4代カリフ([教主], ムハンマドの後継者) アリ暗殺以後
- { スンナ派(多数派, 歴代カリフを支持)
 - { シーア派(少数派, アリの子孫を支持)

図解・資料

A キリスト教とイスラム教の比較



聖地 エルサレム

聖地 メッカ

重要用語のチェック

天使 神に仕える者で、ムハンマドに神の啓示を伝えたガブリエルは、最上位の天使である。

預言者 神の教えを天使によって伝えられ、人類の指導者に任命された者。ムハンマド・アダム・ノア・アブラハム・モーセ・イエスの六大預言者。

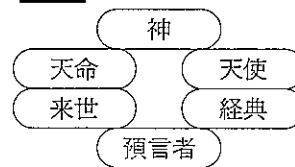
スンナ派・シーア派 スンナは預言者の言行の意味。それに従ってきた共同体の人々として正統を主張する派。シーアは派を意味し、イスラム分派とか少数派をいう。

喜捨 所得に応じたイスラムの救貧税。

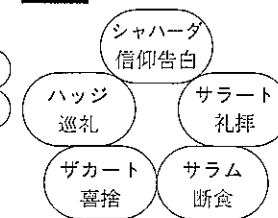
断食 イスラム暦9月(ラマダーン)に1か月間行方。日の出から日没まで断食期間、それ以外の時間帯は該当しない。

巡礼 一生に一度、聖地メッカのモスクに巡礼することである。

B 六信



C 五行



資料 起きて、警告せよ

慈悲深く慈愛あつき神の御名において。読め、「創造主なる汝の御名において。主は凝血から人間を造りたもうた」。読め、「汝の主はいとも心ひろきお方、筆とるすべを教えたまい、人間に未知のことを教えたもうた」。いな、人間は思い上がり、みずから足れりとうぬぼれる。その帰るところは主のみもと。

(「コーラン『凝血の章』」)

先生からの一言

ムハンマドはマホメットともいいます。これはフランス語の“Mahomet”からきています。イスラム教の偶像禁止の考えは徹底していて、ムハンマドがメッカに入城したときも、カーバ神殿の偶像を破壊したことは有名な話です。ムハンマドの顔も、ベールに覆われたり白く塗られているのです。